

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H01875

研究課題名(和文) 日本古典籍における表記情報学の発展的研究

研究課題名(英文) A Developmental Study of Notation Informatics in Japanese Classical Books

研究代表者

今西 裕一郎 (Imanishi, Yuichiro)

国文学研究資料館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：90046219

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間を通して、国内・国外の日本古典籍を所蔵する機関や寺社などを訪問して調査を行い、漢字・平仮名・片仮名という複数の文字種で書かれた日本古典籍の表記情報に関する様々な知見を得ることができた。それに基づく著書・論文等の具体的な研究成果は毎年度報告しているが、研究分担者の人口誌著『漢字・カタカナ・ひらがな 表記の思想』(2016年12月、平凡社)は、一般向けに日本古典籍の表記情報の持つ問題を分かりやすく解説したものとして特筆される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して、漢字やアルファベットという単一の文字種で書かれた中国やヨーロッパの書物と異なり複数の文字種を用いた日本古典籍の表記の特質、古典籍の製作者や享受者と表記の関係、時代による表記の変遷など様々な問題が浮かび上がった。日本古典籍自体は過去の時代に作られたものであるが、漢字と仮名の使い分けなどは現在においても一つの課題であり、本研究の成果は日本語の表記のあり方を考える上で一定の意義を持つと思われる。なお本研究に基づく普及活動として、小学生を対象とした古典籍やくずし字についての授業を行ったことにも触れておく。

研究成果の概要(英文)：Throughout the research period, we visited institutions and temples and shrines holding classical Japanese books in Japan and abroad to conduct research, and obtained various findings on the notational information of classical Japanese books written in multiple character types (kanji, hiragana, and katakana). The specific research results based on these findings, such as books and papers, have been reported every year, but the book "Kanji, Katakana, Hiragana: The Idea of Notation" (December 2016, Heibonsha) by Atsushi Iriguchi, a member of the research, is notable for its easy-to-understand explanation of the problems with the notational information in classical Japanese books for the general public.

研究分野：日本古典文学

キーワード：日本古典籍 表記 文字 平仮名 片仮名 書誌用語 古典籍インターフェース

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者の今西裕一郎が研究代表者として交付を受けていた基盤研究(A)「日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究」(研究期間 2010～2014 年度)の成果を踏まえ、その発展的研究として構想された。当該研究が主に『源氏物語』の古写本を分析対象として日本古典籍の表記情報学の基盤を構築することを目指したのに対し、本研究は対象を日本古典籍全体に広げることで、日本古典籍の表記情報学の更なる展開を図ろうとしたものである。

2. 研究の目的

本研究は、日本古典籍全体を視野に入れることで、時代による表記の変遷、ジャンルによる表記法の相違、製作者や享受者の身分・性別等による表記の選択など、古典籍の表記に関する様々な問題を考察することを目的としている。現在と異なり、特定少数のために個々の書物が作られた時代が長かったことを踏まえ、古典籍という具体的な物を基盤として表記のあり方を考えようとするものである。

3. 研究の方法

日本古典籍は今に遺るだけでも7世紀から19世紀後半まで途切れることなく製作され、膨大な量が現存している。そのため、2.に述べたような表記情報に関する無限の問題を含んでいる。それらについて今後考えてゆくための足掛かりとして、研究代表者及び研究分担者が、それぞれの専門に応じて様々な古典籍の表記を取り上げて考察し、発表や論文等により相互に知見を深めながら研究を進めた。研究メンバーには中国や朝鮮の版本に詳しい者もあり、それらとの比較によって日本古典籍の表記の特質を研究したことも一つの特色である。

4. 研究成果

既に述べたように現存する日本古典籍の量は膨大で、かつ様々な時代・ジャンルに亘っている。本研究ではそれらの一部を考察したに過ぎないとはいえ、以下のように調査や研究会を行い、別掲のような論文・発表・図書等の成果を挙げる事ができた。

(1)2015年度は、国内外において、研究成果を発表するとともに、多くの研究者と討論を重ね、本研究を推進した。具体的には以下の通りである。第1回日本語の歴史典籍国際研究集会(2015年7月31日、8月1日)において、「総合書物学への挑戦」のタイトルでパネルを組み、研究成果の一端を発表した。医学書に関しては2015年6月27日、10月31日に公開の研究会を開催した。表記については2015年7月31日、10月16日に公開の研究会を行い、分担者以外のゲストスピーカーを招いて討論を行った。また、佐賀大学で行われた地域学シンポジウム「薬種商烏犀圃からみる江戸時代の佐賀「野中家資料」の可能性を探る」(2015年9月27日)に参加し、烏犀圃における調査研究成果を発表した。書誌用語に関しては、2016年2月26日に妙法院の蔵書調査を行うとともに、現物を前にしての研究討論を行った。更に、書誌用語の国際化に関して、カリフォルニア大学バークレー校の調査を行う(2016年3月7日から10日)とともに、3月11日には同校においてワークショップを開催し、現地の研究者とともに討論を行った。青少年に向けた古典籍インターフェースの開発では、2016年3月1日に、共同研究会を開催し、意見交換と研究討論を行った。また、実践的な試みとして、文部科学省情報広場において、八王子みなみ野君田小学校(2015年11月5日)、新宿区立愛日小学校(2015年12月11日)を対象とした普及授業を行った。

(2)2016年度は、国内外において、研究成果を発表するとともに、多くの研究者と討論を重ね、本研究を推進した。具体的には以下の通りである。第2回日本語の歴史典籍国際研究集会(2016年7月29日、30日)において、「アジアの中の日本古典籍」のタイトルでパネルを組み、研究成果の一端を発表した。書誌用語の国際化に関して、カリフォルニア大学バークレー校の調査を行う(2017年8月8日から12日、2017年2月27日から3月2日)とともに、3月3日には同校において古典籍に関するワークショップを開催し、現地の研究者とともに討論を行った。各ランチにおいてもワークショップ等を開催し、分担者が研究発表するとともに、内外の研究協力者を招聘し、研究推進に関する討議等を積極的に行った。全体会は5回開催し、各班の進捗状況を報告するとともに、相互の情報共有を行い、また今後の活動についての討議を行った。古典籍インターフェース開発に関わる班では、2017年1月16日に富士ゼロックス京都株式会社との共同研究会を行い、複製技術を応用したインターフェースの開発についての可能性を討議した。これは、産学連携研究の一環でもある。なお表記に関する成果として、『漢字・カタカナ・ひらがな 表記の思想』(入口敦志著、2016年12月、平凡社)を刊行した。

(3)2017年度は、国内外において、研究成果を発表するとともに、研究会やセミナーを通して多くの研究者と討論を交わし、情報収集を行いつつ本研究に関わる成果を挙げることができた。ホノルル美術館の調査(2018年3月)の際、ハワイ大学マノア校と共催で、同大学の教員・学生を対象とした日本古典籍に関するセミナー(2018年3月1日)を開催し、日本古典籍の書誌や表記について意見交換を行った。表記情報学の教育・普及のため、「初中等学校における古典教育」をテーマとする研究会(2017年9月11日)を国文学研究資料館で行ったほか、立川市キッズドリームチャレンジにおける小学生へのくずし字入門レクチャー(2017年7月28日)・江戸川区立子ども未来館の夏休み応援プロジェクト「読めるかな?書けるかな?くずし字で遊ぶ 百人一首」(2017年8月22日)に参加し、くずし字の手ほどきを行った。

(4)2018年度は、国内外において、研究成果を発表するとともに、研究会やセミナーを通して多くの研究者と討論を交わし、情報収集を行いつつ本研究に関わる成果を挙げることができた。カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館の調査(2018年8月~9月、2019年3月)の際、同図書館及びカリフォルニア大学バークレー校日本学研究所と共催で、同大学の教員・学生やアメリカ日本学会所属の研究者を対象とした日本古典籍に関するセミナー(2018年9月6日)を開催し、日本古典籍の書誌や表記情報について意見交換を行った。ホノルル美術館の調査(2019年3月)の際、ハワイ大学マノア校と共催で、同大学の教員・学生を対象とした日本古典籍に関するセミナー(2019年3月1日)を開催し、日本古典籍の書誌や表記情報について意見交換を行った。国内では、2018年6月、書誌情報に関わる、古典籍の表紙裏に貼り込まれた版本の反古紙について研究する「表紙裏反古ワークショップ」を開催した。また「日本古典籍の比較書誌学的研究」に関する研究会を二回にわたって開催した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 神作研一	4. 巻 48
2. 論文標題 Longing for the Refinement of the Heian Court during the Edo Period: Development of Printed Books with Kasen-e	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇	6. 最初と最後の頁 13-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24619/00004454	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 落合博志	4. 巻 265
2. 論文標題 能における宗教関係語句一斑 《放下僧・春日龍神・楊貴妃・草子洗・三輪》について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 152-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 入口敦志	4. 巻 48
2. 論文標題 ホノルル美術館蔵リチャードレインコレクションの意義 整版本『大坂物語』20点の比較からわかること	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国文研ニュース	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 入口敦志	4. 巻 6
2. 論文標題 表記の位相 『延寿撮要』を例に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ふみ	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今西祐一郎	4. 巻 195
2. 論文標題 時の聖俗 「き」と「けり」と	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 256 - 267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合博志	4. 巻 60
2. 論文標題 和歌・連歌・平家と能および早歌 諸ジャンルの交渉	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24604/chusei.60_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 12件/うち国際学会 19件)

1. 発表者名 入口 敦志
2. 発表標題 日中韓刊本の様式について
3. 学会等名 第4回日本語の歴史的典籍国際研究集会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳 捷
2. 発表標題 比較書誌学の立場から見た日本古典籍：中国古典籍との比較を通して
3. 学会等名 第4回日本語の歴史的典籍国際研究集会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神作 研一
2. 発表標題 The Correction and Critique of Waka as Practiced in the Edo Period
3. 学会等名 第10回和歌ワークショップ(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合 博志
2. 発表標題 日本の仏書の書誌学：UCB東アジア図書館蔵 [= 艸+将] (Ho-Chiang) コレクション本を用いて
3. 学会等名 日本古典籍セミナー University of California, Berkeley 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 入口 敦志
2. 発表標題 刊本を筆写した写本について：UCB東アジア図書館三井文庫本を用いて
3. 学会等名 日本古典籍セミナー University of California, Berkeley 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神作 研一
2. 発表標題 刊本の書誌学 刊記と刊・印・修：UCB東アジア図書館三井文庫蔵『百人一首像讃抄』を例として
3. 学会等名 日本古典籍セミナー University of California, Berkeley 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小山 順子
2. 発表標題 和歌を「近づける」ための授業実践
3. 学会等名 中古文学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 入口 敦志
2. 発表標題 古典籍のかたちと表記
3. 学会等名 2018年台湾大学日本語イノベーション国際学術シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合 博志
2. 発表標題 江戸時代初期出版史における謡本の出版：古活字玉屋謡本の表紙裏文書を通して
3. 学会等名 「能楽資料研究の可能性」研究集会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合 博志
2. 発表標題 古筆手鑑と『判比量論』
3. 学会等名 元暁『判比量論』文献と思想の再照明(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合 博志
2. 発表標題 装訂
3. 学会等名 日本古典籍セミナーホノルル2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神作 研一
2. 発表標題 書型
3. 学会等名 日本古典籍セミナーホノルル2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 入口 敦志
2. 発表標題 嵯峨本
3. 学会等名 日本古典籍セミナーホノルル2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今西祐一郎
2. 発表標題 「もののあわれ」と冷泉帝
3. 学会等名 第34回 鈴屋学会大会公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今西祐一郎
2. 発表標題 『古今集』は女手で書かれたか
3. 学会等名 中古文学会関西支部第46回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今西祐一郎
2. 発表標題 絵入り本とテキスト(本文)
3. 学会等名 2017年度四川外国語大学日本古典文学講演会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 表記の思想 漢字・カタカナ、ひらがな
3. 学会等名 中京大学学友会春季大会公開講演会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 表記の思想 漢字・カタカナ、ひらがな
3. 学会等名 2017年度四川外国語大学日本古典文学講演会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 元興寺願暁撰『内外万物縁起章』について 新出上巻の紹介
3. 学会等名 国際仏教学大学院大学日本古写経研究所平成29年度第2回公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合博志
2. 発表標題 写本について 写記（奥書）と識語
3. 学会等名 日本古典籍セミナーホノルル2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神作研一
2. 発表標題 刊本について 刊記
3. 学会等名 日本古典籍セミナーホノルル2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 日中韓刊本の様式について レインコレクションを例に
3. 学会等名 日本古典籍セミナーホノルル2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小山順子
2. 発表標題 古典の普及・教育と漫画
3. 学会等名 第3回日本語の歴史的典籍国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 陳捷
2. 発表標題 『毛詩品物図考』の成立・流布をめぐって
3. 学会等名 第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 日本古典籍としての漢籍 日本語の歴史的典籍のその先にあるもの
3. 学会等名 第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 今西裕一郎
2. 発表標題 日本古典籍における画像データベースの効用
3. 学会等名 中国図書館年会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金子祐樹
2. 発表標題 『全一道人』悌部と『五倫行実図』の翻訳比較 諺解文比較と雨森芳洲の韓語日記
3. 学会等名 第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 神作研一
2. 発表標題 江戸の写本文化
3. 学会等名 Kotenseki Workshop(Workshop on Japanese Old and Rare Books)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 今西祐一郎
2. 発表標題 板本『職原抄』について
3. 学会等名 Kotenseki Workshop(Workshop on Japanese Old and Rare Books)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 Findings on the Library's manuscripts collection
3. 学会等名 Kotenseki Workshop(Workshop on Japanese Old and Rare Books)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小山順子
2. 発表標題 Findings on the Library's manuscripts collection
3. 学会等名 Kotenseki Workshop(Workshop on Japanese Old and Rare Books) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 Findings on the Library's manuscripts collection
3. 学会等名 Kotenseki Workshop(Workshop on Japanese Old and Rare Books) (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 柳井滋、室伏信助、大朝雄二、鈴木日出男、藤井貞和、今西祐一郎 校注	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 624
3. 書名 源氏物語(九)蜻蛉-夢浮橋/索引	

1. 著者名 桑山正進、佐久間秀範、吉村誠、橘川智昭、師茂樹、ステフェン・デル、蓑輪顕量、阿部龍一、肥田路美、荒見泰史、李銘敬、本井牧子、谷口耕生、落合博志、レイチェル・サンダース、近本謙介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 592
3. 書名 玄奘三蔵 新たなる玄奘像をもとめて	

1. 著者名 柳井 茂、室伏 信助、大朝 雄二、鈴木 日出男、藤井 貞和、今西 祐一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 656
3. 書名 源氏物語（四）玉鬘 - 真木柱	

1. 著者名 柳井 茂、室伏 信助、大朝 雄二、鈴木 日出男、藤井 貞和、今西 祐一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 656
3. 書名 源氏物語（五）梅枝 - 若菜下	

1. 著者名 小山 順子、久保木 秀夫、入口 敦志、山下 則子、平野 多恵、福田 智子、富士ゼロックス京都CSRグループ・文化推進室、小林 一彦、阿尾あすか、石井 倫子、山中 延之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国文学研究資料館	5. 総ページ数 142
3. 書名 初中等学校における古典教育	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 612
3. 書名 源氏物語 1	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、島津 久基、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 622
3. 書名 源氏物語 2	

1. 著者名 今西 祐一郎、大朝 雄二、室伏 信助、島津 久基、柳井 滋、紫式部、藤井 貞和、鈴木 日出男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 571
3. 書名 源氏物語 3	

1. 著者名 柳沢 昌紀、入口 敦志、富田 成美、速水 香織、松村 美奈	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 仮名草子集成 5 8	

1. 著者名 岡田三津子 佐々木孝浩 外村久江 外村南都子 神田裕子 落合博志 安達敬子 植木朝子 櫻井陽子 家永香織	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 393
3. 書名 資料と注釈 早歌の継承と伝流 明空から坂阿・宗砌へ	

1. 著者名 山本登朗 落合博志 舟見一哉 薦清行 岡崎真紀子 景井詳雅 濱中祐子 鈴木英之 松本大 大谷節子 浅田徹 館野文昭 野上潤一 橋本正俊 海野圭介 小山順子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 704
3. 書名 中世古今和歌集注釈の世界 毘沙門堂本古今集注をひもとく	

1. 著者名 小山 順子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 112
3. 書名 和歌のアルバム	

1. 著者名 入口敦志	4. 発行年 2016年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 88
3. 書名 漢字・カタカナ・ひらがな 表記の思想	

1. 著者名 今西裕一郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 86
3. 書名 死を想え 『九相詩』と『一休骸骨』	

1. 著者名 陳捷	4. 発行年 2015年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 日韓の書誌学と古典籍	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神作 研一 (Kansaku Ken'ichi) (30267893)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	落合 博志 (Ochiai Hiroshi) (50224259)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	入口 敦志 (Iriguchi Atsushi) (80243872)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	小山 順子 (Koyama Junko) (20454796)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	
研究分担者	陳 捷 (Chen Jie) (40318580)	東京大学・人文社会系研究科・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	田中 大士 (Tanaka Hiroshi) (40722137)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 仮名・ものがたり・随想－江戸の 知 の展開	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Workshop on Japanese Old Books (University of California, Berkeley)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Workshop on Japanese Old and Rare Books	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Workshop on Japanese Old Rare Books	開催年 2016年～2016年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関